

ジュリー・スウィート

アクセンチュア会長兼CEO

DX需要の波に乗り、事業を拡大
米アクセンチュア初の女性CEO

「戦略コンサル」と「ITベンダー」、 両面の支援で急成長

大手会計事務所、米アーサー・アンダーセンのコンサル部門から1989年に独立し、2001年に「アクセンチュア」へと改称。今や、世界最大級の総合コンサルティングファームとなったアクセンチュア。この20年は世界的なデジタルトランスフォーメーション (DX) 需要を捉えてデジタル化に舵を切り、「伝統的な戦略コンサル」と「ITベンダー」という2つの領域にまたがる支援を拡大。世界52カ国・約78万人の従業員を擁する巨大企業へと進化を遂げた。そのトップを担うのが、同社初の女性CEOとなったジュリー・スウィート氏だ。



AI技術の活用やDX支援を軸に事業展開するアクセンチュア

1967年、米カリフォルニアに生まれたスウィート氏は、少女時代に弁護士となることを決意。奨学金を得てクレアモント・マッケナ大学を卒業後、コロンビア大学法科大学院に進学、法務博士号を取得した。企業の合併・買収 (M&A) やファイナンス、コーポレートガバナンスを専門として名門法律事務所に勤務後、2010年に最高法務責任者兼コンプライアンス責任者としてアクセンチュアに入社。最大市場である北米事業のトップに就任するなどキャリアを積み上げ、2019年に同社初の「非コンサル

出身」CEOとなった。

上流から下流まで一貫通貫の サービスで顧客の信頼を得る

スウィート氏が、CEO就任直後に語ったビジョンは、“Digital is Everywhere (デジタルは全ての場所に)”。クライアント企業のDX支援について、「技術の変化を先取りし、流れをつくれないと顧客企業の要望を満たせない」と語り、デジタル・AI分野への投資を加速。世界の主要なIT企業とのパートナーシップの深化にも力を注いだ。

経営戦略の立案だけにとどまらず、システムの構築や導入、アウトソーシングまで、ワンストップで手がけるビジネスモデルも同社の注目点の1つ。こうしたスウィート氏の成長戦略は、顧客の信頼を獲得し、同社の業績拡大に大きく貢献した。

CEO就任当初から、職場の多様性やインクルージョンの推進に注力するなど、持続可能な経営にも力を入れてきた。米タイム誌「世界で最も影響力のある100人」、米フォーチュン誌「ビジネス界で最もパワフルな女性」、米フォーブス誌の「世界で最もパワフルな女性100人」にたびたび選出されるなど、そのリーダーシップは高く評価されている。



2025年のダボス会議に出席したスウィート氏(左から2人目)

写真:ロイター/アフロ、World Economic Forum/Photoshot/アフロ

Profile ジュリー・スウィート 1967年、米カリフォルニア州に生まれる。米クレアモント・マッケナ大学、コロンビア大学法科大学院を経て、企業弁護士に。2010年にアクセンチュアに入社し、戦略的M&Aなどを通じて事業拡大に貢献。2015年に北米部門CEO、2019年にアクセンチュアCEOに就任。米フォーチュン誌「ビジネス界で最もパワフルな女性」などの常連としても知られる。

主な参考文献 日本経済新聞、日経ビジネス、日経クロステックほか